

【特集：第18回 建築祭】 建築を、学ぶ・考える・感じる、その先に

シーラカンスK&H(株)

代表取締役 工藤 和美



金沢海みらい図書館 Photo by Satoshi Asakawa (ZOOM)



博多小学校

建築は、形・空間・機能・用途・昼・夜・気候・地形・素材・人といった、様々なパラメータを通して一つに収斂させていく過程、でもあり、結果でもあるとするならば、固定化され一つの物質に収斂した建築には、完成がないのではないかと思う時がある。この度、学生たちの卒業設計を審査という立場で見せて頂くことになったが、前述のように多様なパラメータで評価されるべき建築の提案を絞り込むのは、難しい作業であり、自分の思考を重ねて深読みしたり、問いを投げかけてみたりと手を尽くしたものの、本当にその学生がやりたかったことや伝えたかったことを理解できたかと言うと、自信を持ってないというのが正直な感想である。もちろん、伝える側のつたなさ、という要因は大きいとは思うが。それは、実務を通じて常に取り組んでいる時も感じるジレンマでもある。依頼者と設計者の間にも大きな経験的隔たりが存在する。学生の集大成だからこそ、思い切って自分の好きな建築を提案すれば良い、と言ってしまえば簡単だが、後に実務の世界に飛び込んで来る若者たちへの門出の儀式としては、卒業設計はそんなにあまやかしてはいけないとも思っている。

大学や専門学校で、意匠・構造・設備などの基礎的な学習を行って、その先に自らの設計に取り組んでいる学生たちの集大成としては、自分自身が「これ」をやりたかった、という強い思いが溢れて欲しいと願っているのだが、昨今の傾向としては、思いを静かに表現する作風が一般化している傾向を感じているが、第18回建築祭に登場してきた卒業設計も、穏やかな提案が主流となっていた。建築を学

ぶだけではなく、豊かで多様な体験を積む事が、設計への力になると感じている。私自身は、親の仕事から数多くの転居を経験しながら、気候風土、人柄、住む家も様々で、その体験を通して育ってきた。大学生になってからは、2回の研修留学でスイスとオランダでの仕事と生活体験がある。衣食住は、グローバル経済の下では、どこにいても同じような物が手に入る、同質の環境で生活が営まれている。差異は存在するが、同質な物の方が目に入ってくる社会となっている。現代建築は、地域性もあるが、国境を越えて同質な物が広がっている。そのような、環境の中で建築を学び発信して行こうとする時に、何をテーマにするか難しい時代なのかもしれない。かつて、ベトナムの大学で卒業設計を拝見したことがあるが、日本とは全く傾向が異なり、大規模な空港や病院や集合住宅といったテーマが多くを占めていた。まさに、社会が求めている近代化の都市政策に必要な建築が対象とされていた。卒業設計は、社会へ出る通過点でもあるが、建築と向かい合う出発点として、とても大切な設計行為だと感じている。学生一人一人が感じて、伝えようとした事は、将来の社会を見るようなものでもあり、既に現状の社会の中で活動している者からすると、預言者たちの提案のようにも見えてくる。これから先の皆さんの活躍を期待しています。今後もおおいに建築にかかわってください。



第18回建築祭を終えて

第18回建築祭を無事終えることが出来ました。会員、協力会員の皆様には、応援頂き誠に有難うございました。貴重なご講演、卒業設計コンクールの審査委員長を務めていただいた工藤和美先生、審査員の松本市美術館小川総館長、JIA 関東甲信越支部渡邊大海支部長、JIA 群馬地域会永井福二代代表幹事、JIA 長野地域会小宮山吉登副代表、長時間にわたる審査、感謝申し上げます。松本市美術館、担当者の方々にもお力添えいただき御礼申し上げます。本年度は昨年度の運営経過を踏襲し事業委員会を開催してまいりました。美術館施設使用計画・日程調整会議、会員アンケート投票による講師交渉決定、チラシ企画作成、建築祭企画書、学生へのコンクール開催の案内、審査員依頼、建築団体への後援依頼、参加作品総数確認後タイ

事業委員長 小川原 吉宏



工藤和美先生との懇話会にて

ムテーブル構成、展示レイアウト作成後美術館にて備品数確認、会員参加依頼連絡確認後の運営担当決め、美術館担当者との運営調整、講師審査員予定確認宿泊予約、懇親会場の予約、展示会場準備作品搬入からギャラリートーク・講演会・コンクールまで刻みのタイムテーブル作成・備品確認・担当責任者の決定等、ざっとこんな感じの事業委員会年間時間割に基づく流れでした。大半が事務的作業となり事務局佐藤さんの綿密な対応によりスムーズな事業委員会運営となりました。事業委員・協力会員、特に事務局・副代表・副委員長・担当責任者の皆様には大変なご苦労をおかけしました。心より感謝いたします。2年間有難うございました。歴代事業委員長の功績は議事録・文書資料により、頼りになる虎の巻として引き継がれていきます。来年度もちょっと大変な事業委員会を応援して頂けるようお願い致します。

長野県学生卒業設計コンクール 受賞者の声

【大学生の部金賞】

信州大学工学部建築学科 中川 颯人

この度は長野県卒業設計コンクールにおいて金賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。コロナ渦も開け、多くの方に自分の作品を見ていただける機会を用意して下さった運営の方々、並びに審査員の方々に心より感謝申し上げます。

卒業設計では、対象地である輪島市にある、魅力ある風景が形作られる多世代共生拠点を設計しました。輪島市に残る魅力ある風景が、人と人の関係性を再編する手がかりになると考え、本提案を行いました。本制作では、自分の考えを形にし、それらを伝えることの難しさを実感しました。設計や表現に関して、至らない部分も多いですが、今回頂いた意見をもとにブラッシュアップを続けていきます。結び、輪島市を始め、被災された方々の一日も早い復興を心より願っています。この度は本当にありがとうございました。



大学の部受賞者／前列右2人目が中川さん

【専門学校の部金賞】

上田情報ビジネス専門学校建築インテリア科 松藤 紗花

この度は長野県卒業設計コンクリートにおいて金賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。このような大きい発表の機会をいただき心より感謝申し上げます。本作品では軽井沢追分を計画地とした移住者と地域の人々をつなぐ建築を提案しました。私自身が軽井沢に住んでいるからこそ知っている事情。そこから両者を交流でつなぐ場所を作りたいという想いを込めました。また、軽井沢の豊かで美しい自然をいかに残し、建築と共存し合えるかという課題に対して真摯に取り組み、自然と人が住まえる一歩となれる建築を目指しました。本製作を通して様々な先生方から助言と自分のやりたいことの狭間を見つけて良い作品へと大きく前進することができました。協力していただいた全ての皆様に感謝しております。この度は本当にありがとうございました。



専門学校の部受賞者／前列中央が松藤さん

大学の部

専門学校の部

高校の部

- 金賞 中川 颯人 (信州大学) 営みの風景を紡ぐ多世代共生拠点
銀賞 高松 葵生 (信州大学) モノと人の結節点 一物流・人流の拠点としての水戸駅再生一
銅賞 加藤 あゆ (信州大学) 住処と住居 一動物の巢の模倣による新たな居住形態の提案一
奨励賞 稲葉 大将 (信州大学) 戦略的たむろ計画 一地方都市における余白の私的領域化の提案一

- 金賞 松藤 紗花 (上田情報ビジネス専門学校) つなぐ 人と人 x 人と地域
銀賞 竹野入大誠/松田拓巳 (上田情報ビジネス専門学校) カカワルタナダ
銅賞 高木 海飛 (上田情報ビジネス専門学校) まんぶくのさと
奨励賞 滝澤生/平田優介/三橋増南 (上田情報ビジネス専門学校) ふんわりばれっと

- 金賞 徳武 珠 (上田千曲高等学校) Hub パスターミナル
銀賞 小林 亮太 (長野工業高等学校) もんぜんぶら座建て替え計画
銅賞 池田 優輝 (長野工業高等学校) 幅広い年代が集える場所 ~カフェ・自習室・書店~
奨励賞 井原 花世 (飯田OIDE 長姫高等学校) つなげる 風越山の麓にある図書館

新入会員紹介

正会員

法人協力会員

【川島宏一郎：川島宏一郎建築設計事務所】



この度JIAに入会いたしました川島宏一郎建築設計事務所の川島宏一郎と申します。神奈川県横浜須賀野市出身で信州大学入学を機に長野県へ移住して28年が経ちました。現在、安曇野市穂高と塩尻市木曾平沢で設計事務所を営んでおります。建築家の職能の一つとして日本文化の進化、保存、再生が大切と考え活動を続けております。特に長野県は重伝建、文化財共に日本の中でも5本の指に入る数の多さとともに日本アルプスを背景に抱いた地域の中の文化を持つ世界に誇れる場所だと考えます。このような場所で建築に関われることを誇りに思っております。何卒よろしく申し上げます。

【(株)オペレーター長野 栗林 透】



この度、法人協力会員として入会させて頂きました(株)オペレーター長野の栗林と申します。弊社は自然排煙装置(キャブレックス)のオイルス ECO(株)の代理店の会社です。取り扱っている商品は建築基準法上の自然排煙装置、自然換気用装置と省エネ、防犯対策に有効な戸建て住宅向けの外付けブラインドシャッタープライユの販売、施工、修繕工事を行っております。今後は皆様と共に地域に貢献させて頂けますよう頑張る所存でございますので何卒宜しくお願い申し上げます。

【(株)増田商会 下平 康之】



この度JIA長野県クラブ法人協会に加入いたしました、(株)増田商会でございます。弊社は昭和22年に長野県で左官工事業をスタートし、県内全域の公共施設、分譲マンション、オフィスビルなどゼネコン各社とのパートナーシップを大切に、確かな技術の継承を掲げ、人々の快適な暮らしの支えになれるよう日々向き合っております。私事ですが10年ほど前に前職の時代には大変お世話になり、会社は変わりましたが改めて入会し、微力ではございますが左官材料の相談からお酒の話まで、ご一緒できましたら幸いです。協会不良会員として一層磨きをかけてまいりましたのでよろしくお祈り申し上げます。

開催したイベント

3月15日(金)に「信州の建築家とつくる家 第19集」発行しました。

今後の行事予定

- 4月4日(木).....監査
4月5日(金).....幹事会(第5回)
4月19日(金).....2024年度通常総会(ホテル犀北館にて)

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せください。

編集後記

建築祭を中心にお届けします。原稿をいただきました皆様、ありがとうございました。発行作業は慣れる頃には作業が終わりの繰り返しでしたが、ひとまず2年間を終えることができました。これからも「建築家通信」のご愛読よろしくお願い致します。 広報委員会副委員長 鈴木敏之



公益社団法人日本建築家協会

編集人/鈴木敏之 発行人/林 隆
発行所/JIA 長野県クラブ
長野市南長野妻科 426-1 長野県建築士会館内
TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303
https://www.jia-nagano.com
E-mail info@jia-nagano.com